

麦わらぼうし



【女性農業者等キャリアアップ講座・名刺交換の実習】

女性農業者向けビジネスマナー研修を開催しました

令和6年12月12日に大河原合同庁舎を会場として、新たな事業に取り組んでいく上で必要なスキルを身につけてもらうため、大原美代子氏（株式会社スマイルアップ代表取締役）を講師に迎え、ビジネスマナー研修「名刺交換で信頼を築く～第一印象から始まるビジネス関係～」を開催しました。

第一印象の重要性と名刺交換の基本についての講義があり、その後、参加者間で演習を行いました。参加者は日頃名刺交換の場面が多いことから、活用できると大変好評でした。

普及センターでは、今後も女性農業者の活躍に向けて、様々な方面から支援してまいります。

プロジェクト課題の成果

地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践

普及センターでは、「地域計画」の作成と実践に向け、担い手に対する技術・経営支援を行うとともに、町と連携し、話し合いの場の設置に向けた支援を行っています。12月24日には「菅生地区水田営農研修会」を開催し、土づくり技術や、農業経営の法人化について講義を行った後、「地域計画」の確認を行いました。

研修会には地域の水田営農を担う生産組合や大規模農家等12人が参加し、「豚ぶん堆肥の活用を進めたい」「法人化についてさらに学びたい」等の意見が出されました。

次年度も引き続き研修会や話し合いの場の設置、担い手の経営改善に向けた支援を行います。



【菅生地区水田営農研修会】

地域特産とうもろこし、そらまめの生産振興による直売所の販売額拡大

村田町では、とうもろこしとそらまめの生産が盛んで、道の駅直売所で毎年イベントが開催される等、地域の特産品として町内外の方々に親しまれています。

普及センターでは、昨年度から道の駅「村田」直売所への出荷者を対象に現地での栽培研修会や巡回を通じた生産技術の向上支援に加え、新規作付け者の誘導や定着支援等を行ってきました。また、直売所の衛生管理の改善に向けてレイアウト変更の提案を行いました。

令和6年度の直売所の売り上げは支援を始めてから徐々に増加しています。



【道の駅「村田」直売所の人達の研修会】

果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築

管内の若手果樹生産者を対象に、研修会やワークショップ等を開催したほか、イベントへの出展活動を支援し、若手生産者のネットワークづくりを図りました。

研修会では、県研究機関職員等を講師に招き、病虫害防除や食品衛生法等を学びました。また、農繁期の働き方等をテーマにした意見交換や相互園地視察を行いました。

出展活動では、消費者との交流を兼ねた販売活動を行い対象者同士の交流が深まりました。

対象者からは、「お互いの意見を聞くことができる貴重な機会だった」「これからも、共同出展活動をしたい」といった前向きな感想が出ました。今後も若手果樹生産者にとって実りのある活動となるよう支援してまいります。



【相互園地視察の様子】

仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大

普及センターでは、たまねぎの目標単収10a当たり3.5tの達成に向け、各生産者に対する病害虫防除等の生産技術支援や適期作業に向けた情報発信を行っています。

また、令和4年度からは環境負荷低減の取組としてリビングマルチの効果実証を行っています。リビングマルチとは、主作物（たまねぎ）のほ場に別の作物（オオムギなど）を

間作することで、主作物に対する害虫や雑草などを抑制する技術です。今年度の現地実証では、リビングマルチとしてオオムギを導入することで、たまねぎの害虫であるネギアザミウマを抑制する効果を確認しました。今後は環境に配慮した栽培技術として、管内への普及を進めていきます。



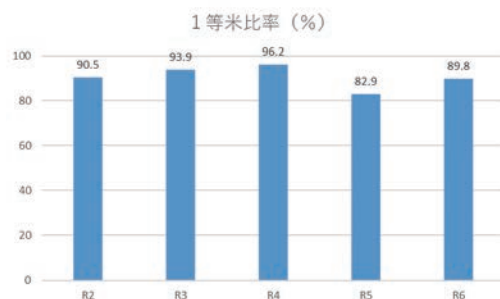
【リビングマルチ大麦に覆われたたまねぎほ場】

特集 令和6年度の水稲作柄について

令和6年は登熟期間中の高温により、高温登熟耐性が弱いササニシキ等の品種を中心に品質が低下しました。また、大河原管内では斑点米カメムシが多発したことで、斑点米被害が増加しました。管内の1等米比率は82.7%（県全体89.8%）となりました（JAみやぎ仙南管内、令和6年12月26日現在）。

令和7年度の良品質米生産に向けた技術対策としては、堆肥や土づくり肥料の施用、晩期栽培と晩生品種・直播栽培の導入が挙げられます。また、出穂後の高温が予想される場合は、飽水管理等の水管理対策が有効です。

さらに、斑点米カメムシ防除を中心とした病害虫防除も徹底し、できる限りの対策を実践することで、上位等級米を生産して収入の安定と向上を目指しましょう。



【宮城県のうち玄米1等米比率】

（令和6年10月31日現在）※過去年度は各年同期の値。
（東北農政局令和6年11月29日公表）

話題

耕畜連携セミナーを開催しました

近年、化学肥料等の資材高騰による経費の増加が課題となっており、それらの対応策の一つとなる畜産堆肥の活用を促進するため、令和6年12月10日に柴田町において、豚ふん堆肥散布の実演会を開催しました。

豚ふん堆肥の特徴や期待される収量向上・肥料費削減効果、フレコンバックを使用した運搬について説明したほか、トラクターに直付け可能なクレーンを利用した堆肥投入とブロードキャストによる堆肥散布の実演を行いました。参加者からは「堆肥の導入効果が解った」「堆肥に対する常識が変わった」等の意見をいただきました。普及センターでは、今後も農業技術の改善に役立つセミナー等を開催してまいります。



【実演会の様子】

水田を活用した露地園芸品目拡大推進研修会を開催しました

令和6年11月18日、柴田町において「仙南地域における水田を活用した露地園芸品目拡大推進研修会」を開催し、管内の生産者を中心に約90名が参加しました。

研修会では、農業・園芸総合研究所職員が「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」を紹介しました。また、実践事例として東松島市の農事組合法人「おおしお北部」の大崎康代表からばれいしょや飼料作物等との輪作体系や耕畜連携への取組について講演いただきました。

普及センターからは、管内で生産を推進しているたまねぎ等の品目についての取組報告を行いました。今後も引き続き水田を活用した露地園芸品目に取り組み経営体を支援してまいります。



【研修会の様子】

宮城県農林産物品評会（うるち玄米部門、果実（なし・ぶどう）部門）・花き品評会 受賞者一覧

令和6年9月に農林産物品評会（果実（なし・ぶどう）部門）、11月に農林産物品評会（うるち玄米部門）と花き品評会の審査が行われ、管内では下記の方々が入賞されました。おめでとうございます！（※敬称略）



【左上：一席「なし」、左下：農林水産大臣賞「ひとめぼれ」、右：みやぎ農業振興公社理事長賞「ひとめぼれ】

農林産物品評会（うるち玄米部門、果実（なし・ぶどう）部門）、花き品評会		
受賞名・順位	入賞者	品種・品目
農林水産大臣賞・一席	エコファーム蔵王 株式会社	ひとめぼれ
みやぎ農業振興公社理事長賞・四席	農事組合法人 北向結ファーム	//
一 席	蔵王町 山家一彦	なし
三 席	蔵王町 佐藤 功	//
銀 賞	柴田町 山家順子	ポットママ
//	丸森町 はるはなファーム株式会社 代表取締役 鈴木 学	ピオラ

農業・農村女性活躍表彰



【表彰の様子】

令和7年1月16日、夢メッセみやぎ（仙台市）において2025農山漁村パートナーシップ宮城県大会が開催され、その際に宮城県農業・農村女性活躍表彰（女性地域参画部門・個人）で最優秀賞の角田真由美氏（大河原町）が表彰されました。おめでとうございます。

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

